

科目ナンバリング：UTL-3-101-01

■授業の目的及び到達目標

本授業は、企業経営の側面から捉えた職業指導の歴史や理論を考察し、今日に至るキャリア教育の在り方、労働環境の現状や諸問題の理解を深め、商業科教員として役立つ体系的な知識の修得を目的とする。さらには、将来商業科教員として、生徒理解の上に職業指導を行えるようになることを到達目標とする。

■授業計画

〔前期〕

- 我が国の職業指導の歴史(1)
我が国の職業指導の経緯を20世紀初頭に遡り学修し、職業紹介が果たす役割を考察する。
- 我が国の職業指導の歴史(2)
昭和初期までの工場での労働環境に着目し、戦前・戦中の労働環境について学修する。
- アメリカの職業指導の歴史
職業指導の父と称される、パーソンズの理論を出発点として時系列で学修する。
- 職業指導にまつわる様々な理論(1)
現代のキャリア教育に大きな影響を与えている、スーパーの理論を学修する。
- 職業指導にまつわる様々な理論(2)
クランボルトのブランドハップスダンス理論から、偶然を呼び込む行動の意味を学修する。
- 職業指導にまつわる様々な理論(3)
フロイト、アドラー、ユングの立場から、職業選択やキャリア形成の意味について考察する。
- 職業指導にまつわる様々な理論(4)
ホルランドの職業選択理論に基づく職業レディネステストを体験し、自らの興味領域と基礎的志向性について理解する。
- 企業経営から見た職業指導の在り方(1)
経営と労働の意味を効率性をキーワードにして、テーラーの科学的管理法について学修する。
- 企業経営から見た職業指導の在り方(2)
フォードシステムについて学修し、人として働くことの意味について考察する。
- 企業経営から見た職業指導の在り方(3)
ファョールの経営管理論における管理原則を学修し、テーラーやフォードとの相違点を考察する。
- 企業経営から見た職業指導の在り方(4)
メイヨーの調査や実験について概要を理解し、その疑問点と結論について学修する。
- 企業経営から見た職業指導の在り方(5)
メイヨーのホーンソンの実験の詳細について学修し、人として働くことの意味について考察する。
- 企業経営から見た職業指導の在り方(6)
マズローの欲求の段階説、マグレガーのX理論・Y理論について理解し、人はなぜ働くのかを学修する。
- 企業経営から見た職業指導の在り方(7)
リッカーの理論から組織の在り方を、ハーズバーグの動機づけ-衛生理論から仕事に対する満足、不満足となる要因について学修する。
- 試験及びフィードバックとしての解説
職業指導の歴史や理論などについて試験を行った後、そのフィードバックとして解説を行う。

〔後期〕

- キャリア教育(1)
キャリア教育の必要性を理解し、学校から社会への移行をめぐる課題について学修する。
- キャリア教育(2)
子どもたちの生活・意識の変容を理解し、キャリア形成に向け学校で育成するべき力について考察する。
- キャリア教育(3)
小中高のキャリア発達段階で必要となるキャリア教育について、その意義を学修する。
- キャリア教育(4)
事例による高校現場の取り組みに当てはめて、高校段階でのキャリア発達の特徴を理解する。
- キャリア教育(5)
キャリア教育への期待を、PISA型学力の視点などから考察する。
- キャリア教育(6)
効果的なインターンシップの在り方について、現状を踏まえて考察する。
- 労働を取り巻く環境(1)
我が国の一般経済の動向、完全失業率と有効求人倍率の推移について学修する。
- 労働を取り巻く環境(2)
就業形態や性別、年齢別などの労働情勢を掌握し、そこに抱える問題点について考察する。
- 労働を取り巻く環境(3)
新卒市場の動向について掌握し、フリーターや若年無業者の問題について考察する。
- 労働を取り巻く環境(4)
外国籍労働者、あるいは高齢者の働き方と活躍のための環境整備について学修する。
- 職業指導と労働に関する法(1)
労働基準法の概要と労働条件の原則、均等待遇及び男女同一賃金の原則等を学修する。
- 職業指導と労働に関する法(2)
賃金の支払方法や法定労働時間の概要などを学修する。
- 職業指導と労働に関する法(3)
「36(サブプロク)協定」を学修する中で、我が国が抱える諸問題について考察する。
- 職業指導と労働に関する法(4)
男女雇用機会均等法、育児・介護休業法の概要について学修する。
- 試験及びフィードバックとしての解説
キャリア教育や労働環境などについて試験を行った後、そのフィードバックとして解説を行う。

■授業の方法

本授業は、知識として伝えるべき内容については講義形式をとるが、その際でも質問を通じて受講生に意見を求め、双方向の授業展開をする。また、講義の最後には振り返りの時間を設け、学んだことを整理してもらう。

■予習・復習

予習は、事前に配付した資料を読み、重要箇所をマークするなどの準備をしてほしい。復習は、知識を定着させるための振り返り学習を重視して、毎回の講義の要旨をまとめてほしい。

■成績評価の方法（成績の評定方法、授業態度、レポート等の扱い）

成績評価は学期試験60%、レポート10%、授業貢献度30%の割合で評価する。なお、授業貢献度には、振り返りシートの提出を含める。学期試験のフィードバックは、試験終了後の授業を通して行う。

■教科書・参考書

参考書：「キャリア・コンサルティング 理論と実際 5訂版」木村 周 一般社団法人雇用問題研究会（2018）、「高等学校キャリア教育の手引き」文部科学省（2011）、「労働経済白書」厚生労働省（2019）ほか

■関連する科目

本講座は、商業科教員免許状取得のための必修科目である。他の教職課程の科目同様、確実な修得が望まれる。

■当該科目の実務経験（該当する場合のみ記載）

埼玉県公立高校で29年間にわたり教員を務めた。